



フードバンク関西ニュー

2008年12月5日 第15号

2008年12月5日発行
NPO法人フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
Tel/Fax 0797-34-8330
E-mail foodbank05@yahoo.co.jp

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を

受け取り、支援を必要とする人達を支える非営利団体にそれらが無償提供する活動をしています。

新年度に入りました。

2008年9月にフードバンク関西は新年度（2008・9・1～2009・8・31）を迎えました。皆様のご支援のおかげで取り扱う食品量、受け取り福祉団体の数、ボランティアの数が増え大きく成長できました。10月26日第5回通常総会にて、平成19年度事業報告及び決算報告、平成20年度事業計画及び予算の承認を得て、新年度を歩み始めました。本年度も安定した運営資金調達方法の確立という大きな課題を抱えていますが、皆様の応援を背中に感じながら、スタッフ一同、力を合わせ活動に邁進したいと思います。

続々と新しい仲間が参加しています。

新しい食品提供企業として、創業200年以上の歴史を持つ（株）あみだ池大黒がフードバンク関西のメンバーに加わって下さいました。大阪土産の代表栗おこし、甲子園土産と言えば甲子園クッキー、懐かしい味です。また、農業研修の成果である収穫物を有効に活用して下さいという申し出を得て播磨社会復帰促進センターからその時々収穫した野菜の提供を受ける事になりました。



第1回交流会を開催

10月4日（土）、第1回フードバンク関西交流会を芦屋市市民センター401号室で開催しました。夕方6時半から、食品提供企業から3社、食品を活用する福祉団体から16名、フードバンク関西正会員及びボランティアスタッフ21名が参加しました。



生憎、当日は尼崎市民祭りなどの他団体の秋の行事が重なる中、こちらの案内が後手に回ったこともあり、参加者は予想より少なかったのですが、初回らしく慎まじやかで温かな雰囲気の中、互いの交流を深める事ができました。軽食をつまみながら談笑し、また自己紹介をし、各立場に於いての意見、感想など貴重なお話を聞く事ができました。



特に食品を受け取る福祉団体の皆様から、施設の利用者の方々にとって「食べる喜び」はとても大きい事、困難な状況の中においても、フードバンク関西からの食品を受け取る事で、周りから支えられている事を実感できる事が重要な意味を持っている事を話していただき、「この世知辛い世の中にも私達の事を考えてくれている人がいるんだ。まだまだ捨てたものではないね。勇気と生きる喜びがあふれます。」との発言に心が熱くなりました。何と云っても、食品を作る立場、食品を受け取って活かす立場、食品を引き取り運ぶ立場それぞれが、「食べ物を大切にする気持ち、勿体ないという共通の思い」で、立場の違いを乗り越えて繋がっていきける事にこの活動の意義とやりがいがあるように感じました。私はデリバリー担当なので、決まった曜日に食品を取りに行き配るだけで、なかなかフードバンク関西のボランティアの皆さんともお会いする機会が少なく、今回は多少たりともいろいろなたくさんの方達とお

話が出来、大変良い時間をもつ事ができました。このような機会がこれからもずっと続いて、立場を超えての理解の輪が広がっていくように、交流会が楽しく実り多く続いていく事を望んでいます。

報告 内富

10月26日第5回通常総会のご報告

10月26日、芦屋事務所において平成19年度の通常総会を開催しました。平成19年度事業報告、決算、平成20年度の事業計画、予算が原案通り、満場一致で承認されました。以下に平成19年度事業報告、決算、新年度の事業報告を掲載します。

19年度事業報告書

(平成19年9月1日から平成20年8月31日まで)

(1) 事業活動の状況

フードバンク関西は、平成15年2月から約1年間の準備期間を経て、平成16年1月20日兵庫県知事の認証を得、同月26日特定非営利活動法人格を取得し、法人として活動を開始しました。去る平成20年8月31日をもって第5期会計年度を終了する事が出来ました。当法人は、食品関連企業等から余剰食品を回収し、社会福祉施設や生活弱者の自立を支援する福祉団体にこれら回収食品を無償分配する事により、これら福祉団体を支援することを目的として、芦屋市呉川町に主たる事務所兼倉庫、尼崎市南清水に倉庫を構え、事業を展開しております。

この活動を通して、食べ物として美味しく栄養もあり安全な余剰食品の有効活用を図ると共に、生活弱者を支える福祉団体を支援することにより、互いに助け合い、より多くの人々がより豊かな生活を楽しむことができる社会の実現に寄与したいと考えています。また、若干なりとも、産業廃棄物として焼却処分される食品の量を減ずる事に

より環境保全にも貢献する事を願っています。

I 余剰食品の回収と福祉団体への無償分配事業について

当期、フードバンク関西は、この活動の協働者として新たに11社と食品の引き取りについての確認書の交換を行い、9社から実際に余剰食品の無償提供を受け始めました。本年度末の時点でフードバンク関西に食品の無償提供を下さる企業は合計15社と1団体になりました。従来取り扱っていた、米、パン、野菜果物、鶏肉加工品に加えて、和菓子、米菓、トマトケチャップ等ソース類、チョコレート菓子、春雨、チーズ、スープ類が新たに受け取り団体へ無償分配できる食品の仲間入りをし、内容の一層の充実が図れました。提供される食品が賞味期限内である事は勿論のこと、品質も申し分なく優れており、商品イメージを大切にしている企業が、フードバンク関西を通じた社会貢献を選択した結果と考えられます。本年度フードバンク関西が取り扱った食品の総量は92.5トンで、前年度より19トン増加しました。取扱食品の品質、量がともに向上している事を、フードバンク関西スタッフ一同、とても心強く感じております。私達がデリバリーする余剰食品を食べ物として有効に活用して下さる福祉団体も増加し、年度末時点で35団体を数えております。団体の活動内容も、障害児と健常児の混合学童保育所、児童養護施設、心身障害者通所作業所、共同生活ホーム、母子緊急生活支援施設、在宅老人介護団体、老人給食グループ、ホームレス就労支援団体、ホームレスへの炊き出しグループ等、多岐にわたっております。今後、食品の供給量の増加が予測されるので、これに見合うより多くの福祉団体を仲間に加える事が可能と推測されます。

またこの事業を担う無償スタッフの数も増加し、食品のデリバリー作業に加えて、食品の検品、仕分け、分配先を決める作業に従事するスタッフが事務所で仕事をする時間も増加しました。

II この事業への評価について

2007年11月19日付けで念願の認定NPO法人格取得ができ、12月から認定特定非営利活動法人フードバンク関西となる事が出来ました。これにより、当法人への寄付や物品寄贈は所得控除の対象となり、フードバンク関西に寄付して下さる方々は税の優遇措置を受けることができます。これにより、フードバンク関西はその事業内容の公益性と運営の公正さが証明され、より信頼度が増したと自認しております。寄付を受けやすい団体になったことの顕著な効果は未だ出ておりませんが、これを機に、フードバンク関西の事業をより多くの方々にご理解いただき、賛助会員が増える事を期待しています。昨年度から報道関係者が当法人の活動に関心を示し、本年度も新聞、テレビ局の取材を度々受けました。中でも主要新聞数社の紙面に複数回にわたって活動紹介記事が掲載された結果、企業からの問い合わせが増加する等反響が大きかったこと、共同通信の取材を受けた結果、全国の28にも及ぶ地方紙に記事が掲載されたことは大きな成果でした。6月にはテレビ大阪制作の「ボランティア21」という番組で30分にわたり丁寧な活動紹介がされ、広く一般の方々に活動を知っていただくよい機会となりました。

2008年1月、ボランティア21元気アップコースで元気アップ大賞を受賞しました。「日本におけるフードバンク事業の方法の確立、兵庫県内の活動拡大のため新たにフードバンクを試みる団体を支援する」を主な企画として、活動紹介を行いました。一般公開された第2次審査では、プレゼンテーションに合わせてボランティアが日々デリバリーで扱っている食品を会場に持ち込みアピールしたことが効を奏し、次点候補に僅差での大賞獲得でした。

2005年5月から開始した当法人のホームページが、検索エンジンの上位を維持し続けており、フードバンク関西の活動を紹介する媒体として非常に効果的に機能しています。それを見た企業やボランティア希望者からの問い合わせが多くあり、すぐ手が届く情報伝達の媒体として、さらにアピール力のあるホームページ作りを継続したいと考えます。

III ふれあい工房悠について

毎土曜日に事務所で行っている「ふれあい工房悠」では、私達が平素取り扱っている余剰食品を食材としたラン

チの試食会を2006年5月から開始し、今も継続しています。事務所に出入りするスタッフや食品を受け取りに来る福祉団体関係者と語り合い、食品の搬入や搬出の作業を手伝う等、フードバンク関西の活動に関心をもつ方々の見学の場として、また地域の皆さんとの交流の場として、さらに余剰食品を食材としたランチを試食することで、「勿体ない」を身をもって体験する有効な場となっています。本年度は認定NPO法人格を取得することにより運営経費の安定確保の道が開け、助成金依存からの脱却を期待した年でしたが、残念ながら支援金の増加は期待通りとはいかず、課題として持ち越されました。企業から無償供給される食品の種類と量の増加、品質の向上が図れた事により、食品の供給については順調な発展を遂げました。食品を受け取って有効活用して下さる福祉団体への支援活動も実績を積み上げています。フードバンク関西は、NPOが余剰食品を抱える企業と乏しい経費の中で生活弱者を支えるため必死の努力をする福祉団体のつなぎ手として「金銭が介在しない食べ物の新たな流通システム」の実質の作業を担い、その必要性と公益性を、実績により証明しつつあると自認しています。ただこの事業の運営費の安定確保の確立が大きな課題として残っています。フードバンク関西に関わって下さる皆様のさらなるご理解とご助言、ご支援をお願い申し上げます。

平成20年度事業計画書

(平成20年9月1日から平成21年8月31日まで)

I 余剰食品の回収と福祉団体への無償分配事業について

フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も食品関連企業から余剰食品と余剰生活用品を回収し、生活弱者の自立を支援する社会福祉施設や福祉団体にこれら食品等を無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

本年度は、昨年度後半に食品を無償提供して下さる企業の数が増えた事に伴って、食品取扱量の顕著な増加が年度当初から見込まれるので、それらを有効に活用して下さる、生活弱者を支援する福祉団体の数を増やし、事業の拡大と充実を目指します。また、大量の食品が提供可能な時は、すでに食品の受取団体となっている福祉団体のみを対象と限定せず、いろいろなネットワークを活用して食品提供の情報を広範囲の福祉団体に送り、受取を希望する団体への無償分配を行っていきます。フードバンク関西の食品の回収と分配、その他の作業に当る無償スタッフの方々には、やりがいを感じる働きやすい環境の整備を心がけ、負担過多にならない運営を行い、昨年度に引き続き増員を図ります。

フードバンク関西は、新しく余剰食品の提供を申し出てくださる企業に対し、食品の品質や保管条件等を吟味し、受入可能かどうかをよく検討すると共に、食品の配送についても協力を求め、またフードバンク関西の協働事業者としての参加を求めます。また、一般の方々のフードバンク活動への関心が高まってきたことを受け、フードバンク関西の事業への参加や支援は、その企業が社会貢献を積極的に行う姿勢として一般消費者に良い企業イメージを与える事を積極的にアピールし、食品の無償提供のみでなく、この事業自体への支援を求めています。具体的には、検索エンジンで上位を維持し続けているフードバンク関西のホームページを積極的に活用します。

食品を受け入れて有効活用して下さる福祉団体の皆さんに対しても、フードバンク関西の事務所での食品の受け渡しや、運送費の一部負担をお願いする等、この事業の長期的継続が図れるよう、参加と協力を求めます。

フードバンク関西の実務部分では、昨年度からの懸案である運営資金の継続的確保の手段を確立するという急務にとりくみます。助成金を申請し続ける事はもとより、多角的に運営資金調達の方法を探ります。

加えて本年度に行いたい設備の改良として、資金の目途がついた段階で、芦屋事務所の駐車場に屋根をつけ、雨天時の荷降ろし作業が快適に行えるようにします。またさらに尼崎倉庫の有効活用、芦屋事務所での一元的取り

扱いによる食品管理の効率の向上を目指し、設備の改良と充実を模索したいと考えます。

フードバンク関西は、フードバンク活動の日本での拡大を願う見地から、他地域のNPO団体がフードバンク事業への参入を希望し支援を求めてきた場合、この事業の先駆団体として私達が今までに培った方法や経験を情報提供し、日本国内にこの活動が広く根付き拡大していく事を応援します。

II 小規模作業所生産品バザーへの取り組みについて

フードバンク関西の社会貢献のもう一つの形として、食品提供企業であるカルフル尼崎店と、食品受け入れ団体である小規模作業所との間をつなぎ、カルフル尼崎店の1階商業スペースの一部を無償で借り受け、出店料無料の作業所生産品バザーを開催しています。昨年度から開催頻度を3か月に一度とし、本年度も継続します。

また出店作業所を増やし、イベントとしてのバザーの内容の充実を図ります。フードバンク関西のこのバザーは、一般購買客への販路を確保しにくい障害者小規模作業所にとって、一般購買客への貴重な販売の機会になり、生産品の品質の向上と、売れ筋商品開発のための情報収集の場として、また接客を通して通所者と一般の方々との交流の機会としても効果をあげています。

III 「ふれあい工房 悠（はるか）」について

毎週土曜日午前11時から午後2時までの3時間、「ふれあい工房悠」と名づけて、芦屋事務所を一般の皆さんに開放し、余剰食品を食材としたランチの試食会を行い、見学と交流の場として活用しています。

調理士資格を持つスタッフが中心になって、その週に取り扱った食品を食材としたランチを準備し運営しています。余剰食品の搬入、搬出等、フードバンク関西の活動を直に見聞する機会として、また商品として扱われなくなった食品も食べ物として全く遜色がないという事を、試食を通じて実感する場として、とても効果的です。

地域の方々や見学者、食品を受け取りに来た福祉団体関係者、フードバンク関西のスタッフ、いろいろな立場の人々が、くつろいだ雰囲気の中で試食と会話を楽しみ、交流を深めています。多くの方に「ふれあい工房悠」での体験を通して私達の活動への理解を深め、支援の輪に加わっていただく広報活動の一つとして、また、たくさんの方々との出会いによる新たな発展を期待して、本年度もこの事業を続けます。

IV 交流会について

本年度新たにとりくむ行事としてフードバンク関西に関わって下さる企業、福祉団体、作業所生産品バザー参加団体、フードバンク関西スタッフが一同に会して交流を深める「交流会」を開催します。

日頃は接触する機会がない、食品提供企業、食品を受け取り有効活用して下さる福祉団体、そしてフードバンク関西スタッフが「金銭の介在しない新しい食べ物の流通のしくみ」を担う仲間として集い、情報交換を通じて、フードバンク関西の事業内容をさらに充実、向上させる機会となる事を期待しています。

		平成19年度 会計収支報告		(単位円)	
収入の部	正会員年会費	260,000	支出の部	運送費	685,950
	賛助会員年会費	881,015		保管費	506,815
	寄付金	102,800		広報費	190,090
	募金	160,152		事業雑費	72,056
	助成金	830,000		事務所費	148,421
	雑収入	62,202		雑費	87,239
	収入合計	2,296,640		支出合計	2,296,169
	平成19年度収支差額	529			

みなさまのご支援を得て、フードバンク関西は活動を続けています。昨年度の正会員、賛助会員、そしてご寄付をお寄せ下さった皆様、ありがとうございました。皆様からの応援を背に受けて、今年もボランティアスタッフは、命の糧である食べ物と人と人との繋がりを大切にして、より多くの困難を抱えた方々の力になるべく、がんばりたいと思います。本年度もよろしくお願いいたします。

平成19年度 会員そしてご寄付を下された皆様のお名前（敬称略）

タオ工房 福社会やじろべえ 杉山敏雄 伊泉隆次 池田登 瀧正秀 山本孝 伊藤邦子 服部隆一
 渡辺文夫 斉藤聡明 ポレポレハウス ビッグイシュー基金 さくら苑 土谷好子 持原好子 いくの学園
 園 武庫第3老人給食グループ 福田公子 中村靖子 草場ルミ子 山内有美子 前田洋子 田上順一
 手作り工房ふるふる 西山清志 佐藤林蔵 丸山至 森田文字 ウイメンズネット神戸 新生活作業所
 神愛子供ホーム 望月利人 西山和彦 小川明 五島静弥 塩浜美代子 村尾美佐子 大東祥成 中村五百枝
 井上悦子 藤原正之 大阪愛の教会 西澤和代 愛神愛隣舎 セキ・パール 高橋玲子 伊丹ICCC
 田辺恵理子 神戸真生塾 望月節 貴志久美子 座間満 春日裕子 望月光 山田壽恵 田中敏智
 新田光明 太田寛 竹内みち子 島田康弘・明子 愛信学園 石井義高 ジャパンフードサービス 柳瀬由美
 柚山寿美 カトリック明石教会 NPO法人コスモス 神保菘 小寺美佐緒 岡宏樹・祐子 難波孝子 高橋園子
 伊澤久代 宮野幸子 川崎かち 笠岡八重 山崎康子 飯田美智子 井上時子 出見公代 吉田チズ子 浅葉修
 吉田ツル子 横江陽子 桧皮武志 島川商店 下田宏子 山本卓也 黒澤麗 土屋商店 猪名川園 今村義嗣
 中尾朱美 村上和也 篠田強 宇根由理子 パルすみのえ 富家泰子 尼崎厚生はすの会 福富英明 田沢恵子
 小野玄喜 松尾昌彦 仲松順子 望月暁 夢とつびあ 土肥理映子 土肥優子 土井安子 小堂フサ子 江川佳那
 岡本健 釜が崎支援機構 宝塚さざんかの家 徳野良夫 木下英里子 大野彰子 井上美智子 鈴木淳子 橘里子
 古結洋子 西川やす子 ドリーム甲子園 伊丹市立あけぼの園 共同ホーム ウニヤトレーディング 亀田典子
 和晃 ひまわりファクトリー アンドレア・オットー 草笛の家 青木淑江 ファレ・モナモナ 東悠介
 中崎紀夫 吉田奈央 古田茂己 黄田昭子 スパークス NPO 法人以和貴 所邦子 伊藤美智子 平井明子
 小林邦子 西浦カズ子 藤田治 山本茂 川西美年 浅葉めぐみ 岩田喜行 大館光雄 山田美智子 小島秀元
 川崎知浩 杉山嘉夫 高田嘉敬 近本博文 南都伸介 南都嘉宏 中馬映子 津川仲二 南原靖一郎 原田佳子
 福本雅子 水上吉庸 森陽一郎 安田英亨 高嶋酒類食品（株） マックスバリュ西日本（株）

食品・物品のご寄贈・個人の方からもたくさんいただきました。（敬称略）

コストコホールセール尼崎 カルフル尼崎 ジャパンフードサービス マックスバリュ西日本 和晃 FBC
 宝幸 植垣米菓 京都成和ベジタブル ハイソツ日本 ネスレ日本 ネスレコンフェクショナリー 高嶋酒類食品
 あみだ池大黒 日仏商事 奈良食品 島川商店 NTT 都市開発 古座川水産 関西スーパーマーケット そば吉
 丸紅シーエルエス プライスクラブ 三洋電機 スペースマスター 全日空商事 和光ネオファーム 岩井康子
 東甲インテリア 近住リフォーム 新見ますみ 吉本圭志
 須永尚子 岡田博視 細見政太 中橋友子 中井美和子
 佐野一郎 大多喜真琴 山形邦子 本島敦子 萩原栄子
 吉田秀司 飯田由美子 熊谷充晃 古内里佳 加藤商店
 芦田昭二 土屋商店 高橋

平成20年9月以降の寄付、
 物品寄贈分は次年度末報告に掲載させていただきます。



余った食べ物を預かって、必要なところに届けます。フードバンク関西